

創立110周年記念全国校友大会開催

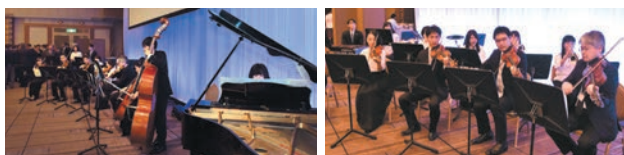


平成28年10月22日(土)、帝国ホテル東京で開催された創立110周年記念全国校友大会は、1641名の校友会会員と110名の来賓の方々の計1751名が参加しました。

午前10時30分から記念式典があり、その中ではじめての中原市五郎賞の授賞式が行われ、第29回卒で台湾の台中市で中山医科大学を創立された周 汝川先生が受賞され、ご子息の中山医学大学理事長の周 明勇先生に授与されました。

また育英基金贈呈では近藤勝洪会長より中原 泉理事長・学長へ目録が贈呈されました。

引き続き中原学長と中原 貴教授の記念講演が行われ、午後1時30分から記念祝賀会が盛大に開かれ生命歯学部アンサンブル部がウエルカム演奏とアトラクションとして演奏を行いました。



生命歯学部アンサンブル部の演奏

校友会からのご挨拶 明治期にみる社会貢献

日本歯科大学校友会副会長
小山 理



日本歯科大学創立者中原市五郎先生(1867年生)はそれまで日本になかった西洋近代歯科医学をこの地に根付かせるため1907年、歯科医学校を設立、さらに世界の一流の補綴学研究者に伍して最新の咬合器を発明し米国で特許を取得されました。また、学校歯科や食育の他、公的活動を通じて社会貢献に尽力されました。

大原孫三郎(1880年生)は1906年、26歳で倉敷紡績社長に就任。すぐさま大部屋であった工具宿舎を少人数の分散式とし、診療所・託児所を併設しました。労働環境改善、貧富の差是正のための研究所を設立。また、最新鋭の病院、私立大原美術館開設等献身的に活動しました。

製糸・生糸貿易で財をなした原三溪(1868年生)は、横浜に広さ約53000坪の日本庭園を自ら設計・造成し、内苑は私庭とし広大な外苑は一般に開放しました。

押し寄せる西洋文化の荒波に日本の伝統建築、美術品の価値を評価しない風潮が広がるなか三溪は各地から多くの歴史的建造物を園内に移築しました。この国指定名勝「三溪園」は今年110周年を迎えました。

第61回富士見祭 今年のテーマは「継承」



まずはじめに、今年で第61回を迎える富士見祭を無事に開催できたこと、また開催にあたって実行委員長として携われたことを大変嬉しく思います。

今年のテーマ「継承」は今までのこの日本歯科大学の歴史と先輩方の精神を受け継いでいくという意志を込めて決めさせていただきました。私が一年生のときから変わらないこの活気を見ていると

しっかり自分が継承し、次の世代へ向けて継承させることができたのではないかなと思います。今年は学外から多くの方々が本学へ遊びにきてくださり、特に芸能部門では富士見ホールが満員になるという例年にはない盛り上がりを見せました。後輩の方々には学内だけでなく学外の皆様も一緒に楽しむことのできる富士見祭を今後も継承していただける

と大変嬉しいです。最後となりますが、富士見祭を開催するにあたり、ご尽力いただきました先生方、三部会の方々、各部活動の方々、富士見祭に関わっていただいた全ての皆様に心より厚く御礼申し上げます。



生命歯学部 4年
村上夏生

校友会・歯学会入会オリエンテーションが開催されました

■生命歯学部

9/15(木) 午後4:10～

進行 菊池学生部長

挨拶 藤井校友会・歯学会副会長

説明 校友会：小倉校友会常務理事

歯学会：勝海歯学会会長

■新潟生命歯学部

12/2(金) 午後2:30～

進行 藤井教務部長

挨拶 倉治校友会専務理事

説明 校友会：小倉校友会常務理事

歯学会：渡辺歯学会副会長



新潟市「キャンパスからの提言フォーラム」 新潟生命歯学部グループが奨励賞を受賞！

8月28日(日)に新潟市役所講堂において、「第3回キャンパスからの提言フォーラム」が開催され、本学学生チームが奨励賞を受賞し、2年連続での入賞を果たしました。

このフォーラムは、新潟市と本学を含む13大学が加盟する大学連携新潟協議会の主催で開催され、今回は5大学(新潟大学・国際情報大・新潟青陵大・青陵短大・日本歯科大学)から9グループの参加がありました。

本年度は「観光客・観光収入倍増計画」がテーマで、4回の全体ワークショップと、関係機関へのヒアリングに参加しました。本学からの参加学生は1年生の村上可奈・飛永環・齋藤渚の3名(Forever24：永遠の日歯)でし



た。フォーラムでは各グループ10分間のプレゼンを行い、審査の結果は最優秀賞に新潟青陵大が、奨励賞に本学が選ばれ賞状ならびに副賞が授与されました。

他学は2・3年生を中心に構成され、指導教員の強力なサポートを受けていましたが、本学的女子1年生3名はこれに真っ向から立ち向かい、大胆かつ新鮮なプレゼンを立派に行い、奨励賞を受賞しました。

新潟校学生と 市民との交流会を開催



11月24日、新潟市中央区長嶺町の市民の方々と新潟生命歯学部の学生5名との交流会が開催されました。学生たちは参加された市民の方々と学食と一緒に昼食をとりながら、楽しい時間を過ごしました。新潟の食事や日ごろの料理、野菜などの食品に関するお話など終始活発な情報交流がなされました。

平成28年度 関東8歯科大学バスケットボール大会 祝!! 男子・女子W優勝!!



『校友会主催 特別講義』を受講して

平成28年11月10日(木)、訪問歯科特別講義が附属病院牛込ホールにて開催されました。講師は日本歯科大学新潟病院 訪問歯科口腔ケア科 准教授 白野美和先生(86回)が務められました。



生命歯学部5年
會田莉紗

少子高齢化が叫ばれて以来、日本全体での高齢者の割合が25%を超え、超高齢社会が到来する昨今において、「訪問歯科診療」は我々次代の歯科医師となる学生において大きなトピックスでしょう。

今回の講義を拝聴する直前まで私は訪問歯科診療に対して興味を持っているどころか、自身が介護を経験し、「一般人としての介護に対するネガティブイメージ」を持っていたために苦手意識がありました。しかし、白野先生の講義には先生が訪問歯科診療を始めるに至った経緯や心境の変化、現場での経験など、私に足りなかった想像力を補うために有用な

お話が余すところなく散りばめられていました。登院実習中、診療室の先生方による「ただ主訴の部位のみを見ればいいだけではない」という教えが訪問歯科診療においても重要であること、間接的に人命に関わると感じがちな歯科診療が直接的に患者の生命を左右しかねないということ、そして患者を一個人とし、その一生の瞬間に我々は介入しているのだという事実、その重みを改めて感じさせられました。

講義後、訪問歯科診療や高齢者の歯科診療に対するイメージは大きく変わり、今後の登院実習、勉強への意識を変える大変貴重な

な、良い機会を与えていただけたと感じています。百聞は一見にしかず、というように、ただ教科書の内容を知るだけではなく、臨床に活かせる知識として、現場の当事者の声を聞くということは、こういった講義として間接的に見聞きするとしても学生にとっては大切なことですし、特に臨床を体験し始め、国家試験やその後について考えなければならない5年生には有益なものであると思います。

この場をお借りし、改めて白野先生に感謝の意を伝えさせていただきます。

こうゆう先輩 第9回

歯科医の分類



世田谷区開業
藤城康二 (66回)

私は今年で65歳になりますが、この年になり、廻りの同年代の歯科医師を見渡すと見事に4つのジャンルに分類されている事に気がきます。

1. 歯科医療に没頭するタイプ
2. 会務(政治活動)に没頭するタイプ
3. 趣味に生きる人
4. ぼーっと生きてる人(笑)

1のタイプ 私の友人は1日30-50人の患者を診て、終わってから遅い時間までその日に取った資料の整理と歯科の勉強。休日も朝から晩まで診療室にこもり、自分の中のテーマである歯科の研究、あるいは学会や研究会に向けての資料作り、整理。すなわち仕事が趣味、趣味が仕事。歯科医の本懐的な生き方?

2のタイプ たまたまですが、同級生(66回卒)に高橋英登君(日本歯科医師連盟会長)、丸山進一郎君(日本学校歯科医会会長)、2学年下に堀 憲郎君(日本歯科医師会会長)という要職に就いて頑張っている人がいますが、私くらいの年齢になると地区の歯科医師会はじめ、様々な団体のトップあるいはそれに準ずる(準じていた)人は多いです。

3のタイプ はい! 私です!! (笑)

4のタイプ まあ、いますね、結構。

今、学生の皆さんも40数年後には必ずどこかの分類に属しているはず。貴方はどのタイプに属するか想像つきますか? どのタイプでも素敵な生き方だと思います。が、できたら4コースはちょっと。(笑)

自分を振り返ってみると、あるターニングポイントを境にぐっとシフトします。

私にとってのターニングポイントは57歳でのある「出会い」です。それまでの私はどちらかと言うと第4コースの人でした。沖釣り(海の船釣り)はそこそこやっていましたが。

事の発端は7年前の春、家内と青山をブラブラとナニゲに徘徊していた時のことです。外苑西通りをベルコモンズ(今はなくなってしまいましたが)から千駄ヶ谷方向に少し進んだ所に和太鼓の教室があるのを見つけました。そしてその教室の前にパンフレットが置いてあったのです。たまたま通りかかり、そのパンフレットを一枚、何気なく取って持ち帰ったのですが、そのちょっとした些細な行為がそれからの私の生き方を大きく変えました。家に帰ってネットで検索してみ、興味を持ちました。その和太鼓教室(TAIKO-LAB AOYAMA)のホームページのトップページにあるキャッチコピーにコロッとやられてしまったのです。「音楽、スポーツ、パフォーマンス。そして、癒し。」

どうですか? その時の私には最強のキャッチコピーでした。

試しで行った体験レッスンで脳天までしられる様な衝撃を受け、その場で入会しました。

以来、和太鼓にハマりました。そしてその結果、確実に心身ともに健康になり、活性化しました。和太鼓の持つパワー、恐るべし! です。

私のその後の人生の色合い、明らかに変わりました。

その「心身ともに活性化した」結果が、今の私の活動の中心になっている世田谷区歯科医師会音楽部(SOB)というさらに活発な活動に結び付きました。和太鼓で活性化していなければ音楽部に入部する確率は確実に0(ゼロ)パーセントでした。音楽部に入り、御年59にしてさわったこともないベースを持ち、始めたオヤジバンド、始まったロック人生に関しては悲喜こもごも色々ありますが、現在の主な活動を列記します。

銀座ケントスを始めとする年数回の定期ライブ/世田谷区内の老人ホームでの慰問演奏会「歯っぴいジョイフルコンサート」/他地区歯科医師会音楽部との合同ライブ/歯科医師会のイベントでの演奏/秋の山中湖での強化合宿等々。昨年は世田谷区主催の「せたがやバンドバトル」に参戦して準優勝を得ました。

最後に申し上げます。

私は仕事もちゃんとやっています! (笑)

私の敬愛する作家吉川英治氏の言葉に「楽しまずして何の人生ぞや」というのがあります。正にその通り!

後輩の皆さんもこれからの長い人生、楽しくビビッドに生きるためにはどうすべきか? 「知恵」を働かせながら、せっかく授かった生を全うしていただきたく切に望みます。

老婆心ながら私なりの「知恵」を2つ。

1. 出会い(人との出会い、その他の出会い)を大切に。

私は和太鼓との出会い、最初の一步がそれからの老後? を大変色濃いのにしてくれました。

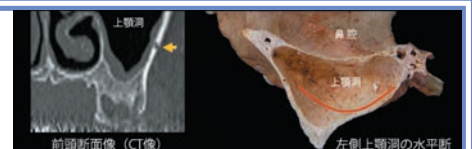
2. 真の楽しみは自身が向上する所にある。

仕事にしろ趣味にしろ、最大限の努力を惜しまず、少しずつでも更なるレベルアップをしていく所に人間最大の喜びがあると私は信じます。

KOYU Quiz

Q. 矢印が示す管内を通る動脈(右図の赤線)はどれでしょう。

- a 舌下動脈 b 大口蓋動脈 c 後上歯槽動脈
d 下行口蓋動脈 e オトガイ下動脈



国家試験体験記

優等生であったとはいえない私が6年の皆さんにアドバイスをするというのもおこがましいのですが、少しでもお役に立てればと思い筆を執りました。

まず大切なのは当たり前のことではありますが「授業を大切にすること」です。そして、授業の内容を理解するまで復習をしてください。国試合格のために治療法等の暗記は不可欠です。しかし、「単語」を暗記するだけでは臨床の場

で役立つ知識にはなりません。授業を理解できなかったら、国試でも通用しないと考えます。私も9月迄は授業中心の学習を進めていました。

次に重要なのは「国試対策問題集に取り組むときはわからないところを残してはいけない」ということです。皆さんも9月以降は問題集中心の学習を進めることになると思いますが、正答と誤答の根拠を説明できなければ「分かった」とは言えません。「解説」には丁寧に目を通してください。自分で資料を調べる必要も出てくるかもしれません。先生や成績上位の友人に積極的に

質問するのもいいと思います。因みに臨床実地問題では5年時の臨床実習での経験が大変役にたちました。

6年の1年間は人生を賭けた重要な年になると思いますが、体調管理には十分留意され心が折れそうな時も支えあう仲間を大切に有意義な時を過ごしてください。皆さんの国試合格を心より祈念しております。



附属病院
臨床研修歯科医
秋知美穂
(105回)

埼玉県人会開催の報告



平成28年12月8日(木)に、池袋Esolaの『梅蘭』にて埼玉県人会を開催致しました。

校友会からは小谷田先生(61回)、角田先生(65回)、渡辺先生(68回)、栗山先生(70回)、大井先生(71回)、松崎先生(76回)、学内からは小川先

生(82回)はじめ他9名の先生方に出席していただきました。在校生は14名参加し、全員で28名の県人会でした。初めに、小谷田先生と小川

先生から開会のご挨拶をいただき、角田先生の乾杯で宴会が始まりました。例年と異なり、今回の会場は夜景の味を中華料理のお店で行ったため、会話も弾みより一層先生方との親睦を深めることができました。その後Esola正面で記念撮影

を行ったのち二次会へと移動し、遅くまで楽しい時間を過ごしました。

5年生になってからの先生方のお話は、大学だけでは学びにくい実際の歯科医院での臨床の事等をお聞きでき、興味深いものばかりでとても有意義な時間となりました。これからも埼玉県人会が盛大に開催されることをお祈り申し上げます。

最後に校友会並びに、お忙しい中ご出席くださいました先生方に深く感謝申し上げます。



生命歯学部 5年
金堯中

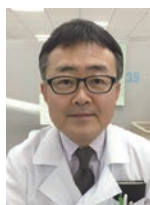
KOYU Quizの答え：C

後上歯槽動脈。後上歯槽動脈の一部は歯槽孔から上顎洞内に入り、上顎洞外側壁の後歯槽管(矢印)内を走行する。後歯槽管はサインスリフト(上顎洞底挙上術)を行う際の開窓部にあたるため、損傷による出血を注意する必要がある。後歯槽管をCT画像で読影することにより後上歯槽動脈の位置を把握できる。

診療室での物語

カルテ No.14

それは本当に歯の痛みですか？



附属病院
口腔顔面痛センター長
石井隆資
(76回)

歯に原因はないのに歯に痛みを訴える、「非歯源性歯痛」という病態が存在します。しかし、この病態を知らないと、痛いのなら抜歯しましょう、痛みが取れないので抜歯しましょう、隣の歯が原因かもしれないので隣の歯を治療しまし

う、となってしまう。ですが、原因は歯ではないので痛みは消失せず、悪循環が繰り返され、患者さんも歯科医師も困り果ててしまいます。

この非歯源性歯痛の原因には、1. 筋・筋膜性、2. 神経障害性(三叉神経痛、神経損傷などによる歯痛)、3. 神経血管性(片頭痛、群発頭痛などによる歯痛)、4. 上顎洞性(急性上顎洞炎による歯痛)、5. 心臓性(心筋梗塞、狭心症からの関連痛による歯痛)、6. 心因性(身体表現性障害としての歯痛など)、7. 特発性(非定型歯痛・顔面痛を含む)、8. その他(側頭動脈炎、腫瘍の顎骨転移など)があります。

例を挙げると、30歳代の女性、左下奥歯に鈍痛があり、再根管治療目的で紹介されました。患歯は10

年前に治療され今まで無症状だったそうです。エックス線写真上では、根管充填がやや不十分でしたが病変は認められず、打診痛もありませんでした。痛みの特徴は、持続的な鈍痛とのことでした。一通りの口腔内の検査を行い問題はなく、その次に咀嚼筋の触診を行いました。側頭筋、胸鎖乳突筋では反応はありませんでしたが、左側咬筋を触診した際に痛みを感じ、その部分を5秒間押し続けたところ、いつも感じている痛みが再現できました(これをfamiliar painと言います)。

これにより、患者さんが感じている歯の痛みは咬筋に存在するトリガーポイントからの関連痛であり、筋・筋膜性歯痛であることが診断でき、不必要な再治療は避けることが

できました。筋・筋膜性歯痛という病態を知らない歯科医師が診ていたら、クラウンを外し、メタルコアを削り取り、根管充填材を除去し、再根管治療を行っていたことでしょう。

「知らない病気は診断できない。診断できなければ治せない。」と言いますが、診断の引き出しの中に非歯源性歯痛が入っていないければ、探しても絶対に見つかりません。また、診断を下すには様々な知識が必要で基礎科目、臨床科目の全ての知識を統合し論理的に進めていきます。皆さんも今は定期試験、卒業試験、国家試験のための勉強と思っているかもしれませんが、歯科医師となった暁には学生時代に勉強したことが、きっと役に立つことでしょう。未来のために、今をがんばってください。

校友の 歴史の重さ 手渡して 頼むぞ後輩 母校の未来 伝統を 守ってゆきます 我々も 富士見・浜浦 熱き心で

